

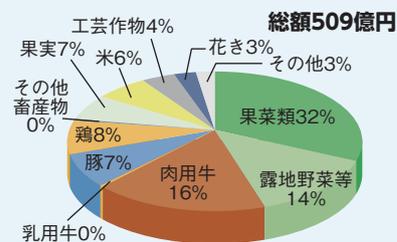
第2章 地域別ビジョン

1 中部地域

1 地域農業・農村の特性

- 中部地域は、冬期温暖な気候を生かした野菜、果樹、花きの施設園芸を基幹に、早期水稲等の水田営農と畜産を組み合わせた農業経営が中心で、県内では希な耕種と畜産のバランスがとれている地域です。
- JAのトレーニング施設やみやざき農業実践塾等を活用した新規就農者が多数生まれています。
- 認定農業者は減少傾向にありますが、人・農地プランの実質化が進み、中心経営体が地域の担い手として期待されています。
- 施設園芸では、高軒高ハウス、環境制御技術等の新技術の導入による反収向上が実現しています。また、畜産では、入植団地やキャトルセンター※1の整備が進められています。
- 畑地かんがい(綾川地区、大淀川右岸地区、大淀川左岸地区)が整備され、天候に左右されない畑作営農が展開されています。

■ 中部地域の農業産出額(H30)



■ 中部地域の新規就農者の推移



2 現状と課題

- 新規就農者は施設野菜(きゅうり、トマト等)が多く、果樹、茶等の未収益期間が生じる永年作物や高額投資が必要な畜産では少なくなっています。
- 農業従事者数の減少、高齢化、土地持ち非農家の増加等の課題が顕在化しています。このため、水田営農、畑作園芸、畜産において、分業化等の経営形態の変化や新たな集落営農の仕組みづくりなどが求められています。
- 一部の施設野菜では環境制御技術の高度化が図られ収量が大きく伸びていますが、導入が進んでいない地域や品目では、今後 ICT 技術の導入を更に進める必要があります。
- 頻発化、激甚化する台風や地震等の自然災害をはじめ、家畜伝染病、野生鳥獣被害等が農業経営に与える影響は大きくなっていることから、施設の強靱化や予防対策の強化等が必要となっています。

3 地域農業・農村の目指す将来像

先進技術と地域資源をフル活用!多様な経営体が未来を切り拓く農業・農村

目指す将来像

- 地域農業を担う高度な技術力・経営力を持った家族経営体や農業法人等の多様な経営体が確保され、生産基盤の整備等を通じて、これらの経営体が地域の農業を支えています。
- 類型別の新たな水田営農が展開されるとともに、大規模畑作営農の確立や、畜産での分業化が図られるなど、先進的な生産体制が構築されています。
- 多品目で高度な生産情報管理や環境制御技術等が導入され、超省力、高効率で収益性の高いスマート農業が実践されています。
- 環境に優しい農業や農村の有する多面的機能を保全する活動が活発に展開されるとともに、気象変動や危機事象等への対応も強化された魅力ある農業・農村が構築されています。

※1 JA等が生産された子牛を預かり、ほ育・育成を集団的に行う施設。



〈序〉計画の策定にあたって

〈第1編〉長期ビジョン

〈第2編〉基本計画

〈第3編〉地域別ビジョン

〈第4編〉計画実現に向けた推進体制

〈資料編〉参考資料

4 目指す将来像実現に向けた重点的施策

1 中部農業の未来を紡ぐ多様な担い手の確保・育成

- 新規就農者の就農支援を継続するとともに、農地、中古ハウス、機械等の情報を集約し提供します。また、果樹や花きでも円滑な就農支援体制を整備し継続的に支援します。
- 地域又は産地をけん引する農業者の技術力、経営（マネジメント）力を向上させ、10年後の地域をリードする経営者を育成します。
- 雇用労働力としての多様な人材（農福連携、外国人、学生、他産業等）の確保を支援します。



高度な学修会活動
（環境制御技術）

2 トップを走る生産性が高く高収益な中部農業の確立

- 水田では、大規模経営体タイプ、ハウス経営体中心タイプ、集落営農指向タイプといった類型別に、大区画化や汎用化、ハウス経営との分離、優良農地の確保、集落営農の組織化など必要な支援を行い、得られた情報・知識を基に、優良事例の横展開を進めます。
- 畑地では、国営関連事業等を活用し農地の集積・集約、区画拡大等の基盤整備を行うとともに、畑地かんがい用水を活用した効率的で生産性の高い農業を推進します。
- 施設園芸、畜産を中心に、ICTを活用した高度な生産情報に基づく栽培技術や環境制御技術を導入し、スマート農業を段階的に進めることで、超省力、高効率で収益性の高い経営を実現します。
- 畜産では、作業の分業化や協働による生産体制を構築し、担い手の労力負担軽減や規模拡大を推進します。
特に、肉用牛では、子牛を預かり育成するキャトルセンター等の繁殖支援施設の活用による規模拡大を進めるとともに、肉用牛ヘルパー^{※1}やコントラクター^{※2}等のサポート組織の育成を推進します。



基盤整備と連携した農地
集積・集約



収穫作業を効率化する
飼料稲用自走式収穫機

3 しなやかで災害に強い安全・安心な農業・農村づくり

- 日本型直接支払制度や、家畜防疫、鳥獣被害対策など地域が一体となって取り組む共同活動を推進し、魅力ある農村づくりを支援します。
- 宮崎方式 ICM や陽熱消毒等の環境負荷を低減する取組や耕畜連携による良質堆肥の活用等の資源循環型農業を支援し、環境に優しい農業を推進します。
- 県内の約半数（313 か所）を占めるため池等の農業水利施設の整備や、農業用ハウス等施設の強靱化を進めるほか、収入保険や農業共済の加入を促進し、気象変動や新奇病害虫等の災害に強い安全・安心な農業・農村づくりを推進します。



防災重点ため池の整備

※1 肉用牛におけるヘルパー（畜産農家の代わりに家畜の飼養管理等を行う者）。

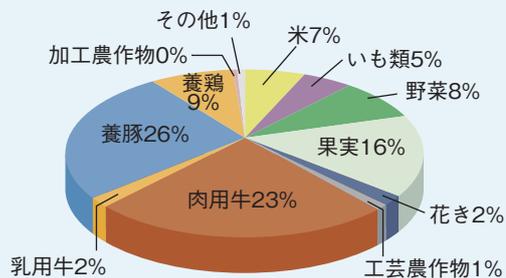
※2 畜産農家等から飼料作物の収穫作業等の農作業を受託する組織。

2 南那珂地域

1 地域農業・農村の特性

- 南那珂地域は、冬期温暖多照な気候等恵まれた自然条件を最大限に生かし、超早場米や県内生産量の過半を占めるかんきつ類、食用かんしょ、スイートピーを中心に、施設きゅうり、ピーマン、肉用牛、養豚、みやざき地頭鶏など多彩な農業が展開されています。
- 耕地面積は県全体の8.5%に当たる5,640haで、水田の占める割合が高く、また畑地では樹園地の割合が高い地域となっています。

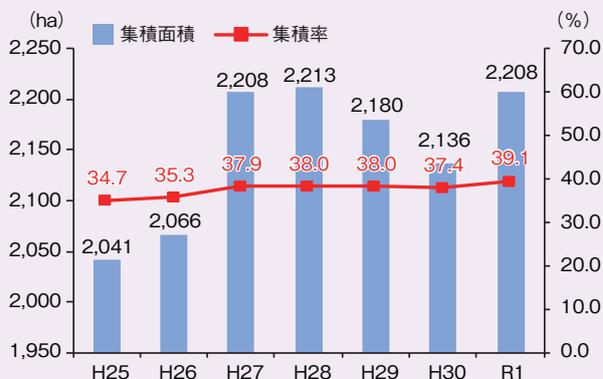
■ 南那珂地域の農業産出額(H30)



2 現状と課題

- 農家戸数の減少及び高齢化が進行していることから、新規就農者等の担い手に雇用人材も加えた多様な人材の確保を進めるとともに、JAや集落営農組織等による産地サポート機能の強化等により、地域農業を維持・発展していく必要があります。
- 本地域は水田のほ場整備が遅れており、畑地を含め担い手への農地利用集積が進んでいないことから、大区画化や汎用化等を進めるとともに、農地の集積・集約化や推進品目の絞り込み、ゾーニング※1等により生産性・効率性を高めていく必要があります。
- 火山活動の活発化や台風災害、地球温暖化の進行に加え、新奇病害虫や家畜伝染病等の発生リスクが高まっており、様々なリスクへの備えを強化する必要があります。
- 農村集落は、農業生産活動の衰退に加え、集落機能や多面的機能の低下が危惧されており、地域資源を生かした農業の活性化を図るとともに、多様な産業との共創による農を核としたビジネスの創出を図る必要があります。

■ 担い手への農地集積の推移(南那珂)



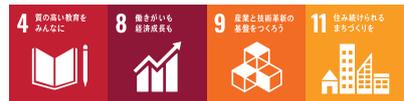
3 地域農業・農村の目指す将来像

温暖な気候や豊富な地域資源を生かした魅力ある南那珂の農業

目指す将来像

- 水田では、基盤整備やゾーニングによる担い手への農地の集積・集約化が図られ、早期水稲と高収益作物を組み合わせた生産性の高い水田営農を展開しています。
- 畑地では、産地の中心的なリーダーがJA等と連携しながら、食用かんしょ等を核とした複合経営や輪作体系による効率的な畑作営農を展開しています。
- 畜産では、スマート生産基盤の確立による生産性向上が進むとともに、意欲ある肉用牛繁殖農家の更なる規模拡大による大規模な畜産経営を展開しています。
- 樹園地では、かんきつ類等の地域資源を最大限に活用した複合経営及び6次産業化等の経営基盤強化が図られ、魅力ある農業・農村が形成されています。

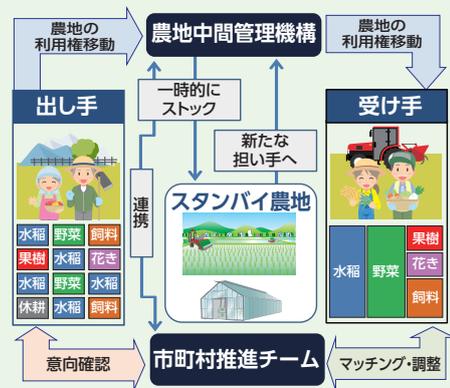
※1 栽培する作物毎に農地利用をエリア分けし、生産性向上を図ること。



4 目指す将来像実現に向けた重点的施策

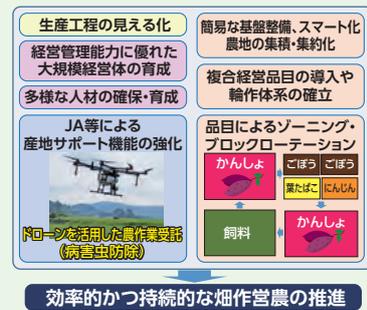
1 超早場米と高収益作物を組み合わせた生産性の高い水田営農の推進

- 水田の大区画化や汎用化等を進めるとともに、担い手への農地の集積・集約化や品目毎のゾーニング等を進めながら、早期水稲と施設ピーマン、施設きゅうり、マンゴー、スイートピー、ごぼう等の高収益作物を組み合わせた生産性の高い水田営農を推進します。
- 担い手が不足する地域においては、従来の複合経営に加え、リタイアする農家の農地を農地中間管理機構がスタンバイ農地として集積し、集落内外の意欲ある担い手や JA 出資型法人等に委ねる体制を構築するなど、産地サポート機能の強化を図ります。



2 食用かんしょ等を核とした輪作体系による畑作営農の推進

- 食用かんしょやにんじん等の土地利用型作物を組み合わせた輪作体系の確立を進めます。
- 担い手の経営発展段階に応じた技術・経営支援を強化し、産地の中心的なリーダーとして養成するとともに、雇用人材を加えた多様な人材をアグリプレーヤーとして確保・育成します。
- 簡易な基盤整備や農地の集積・集約化、スマート生産基盤の確立を進めるとともに、担い手と JA 等との分業化を図りながら、効率的かつ持続的な生産体制を構築します。



3 肉用牛生産基盤の拡充による宮崎牛産地づくり

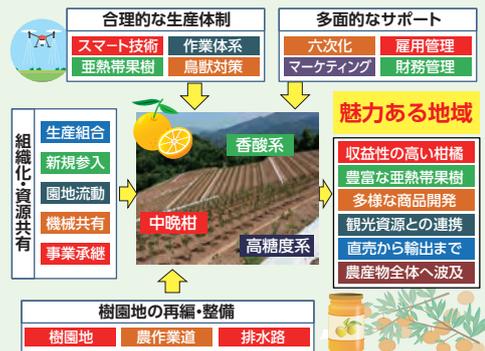
- 肉用牛農家の規模拡大を推進するとともに、ICT等の活用により、分娩間隔の短縮や子牛の事故率低減を進めながら、肉用牛生産基盤の拡充と経営の安定化を図ります。
- 大規模稲作農家や集落営農組織との耕畜連携による粗飼料生産を推進するとともに、放牧の推進による労働力不足の解消を図ります。



ICT関連現地研修会

4 豊富な産地資源を生かした魅力ある地域づくり

- 豊富な産地資源であるかんきつ類については、香酸かんきつや有望な中晩柑類と組み合わせた複合経営によって産地競争力を強化します。
- 簡易な農作業道、園地整備やスマート農業技術の導入による省力化を図るなど、条件不利地域に対応した生産体制を構築します。
- かんきつ類をはじめとする一次製品の産地加工や直売等の6次産業化、輸出拡大等の取組を強化し、農を核としたビジネスの創出を進めます。

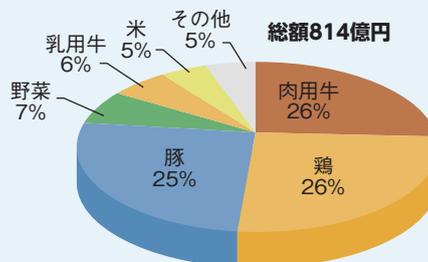


3 北諸県地域

1 地域農業・農村の特性

- 北諸県地域の気候は、内陸性の特徴を有しながら比較的温暖で、都城盆地を流れる大淀川流域に水田が広がり、高台には広大な畑地を形成しており、鉄道や高速道路、国道等のインフラが整備され、南九州の要衝地となっています。
- 当地域は、広大な農地と交通の便を生かし日本の食料供給基地として発展し、農業産出額は814億円、うち畜産が8割を超え県内でも畜産の割合が高い地域となっています。
- 耕種部門は、野菜と米が主体となっており、一部で農業法人や集落営農組織、個人経営体による大規模経営が展開されています。

■ 北諸県地域の農業算出額 (H30)



2 現状と課題

- 畜産は、基幹産業として地域経済に大きく寄与していますが、担い手の減少による産地生産力の低下が懸念されることから、それぞれの農家の規模拡大に加え、産地全体でのサポートシステムの構築や、スマート畜産の推進による生産基盤の強化と生産性の向上に取り組む必要があります。
- 水田では、集落営農組織による高収益作物を導入したベストミックス※¹に取り組んでいますが、構成員の減少が進行していることから、人材の確保・育成を行うとともに、基盤整備やスマート農業技術による生産性の向上に取り組む必要があります。
- 畑地では、農業法人や個人経営体が大規模経営を行い、加工・業務用野菜等の栽培に取り組んでいますが、農地の集積・集約化や雇用労働力の安定確保、畑地かんがい用水の活用による消費者ニーズに対応した産地体制の強化に取り組む必要があります。

■ 基幹的農業従事者数と平均年齢の推移 (北諸県)



3 地域農業・農村の目指す将来像

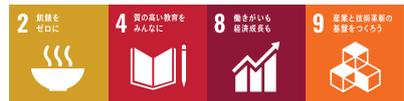
挑戦と連携で築く「魅力ある高収益盆地農業・農村」

目指す将来像

- 畜産では、家畜防疫の徹底を基本に、発情発見装置や搾乳ロボットなどスマート畜産の普及により担い手が確保され、育成牛供給センターやコントラクター※²等により産地生産力が維持されています。
- 大区画化や汎用化した水田において、自動化技術やセンシング技術等を活用することで、より高収益なベストミックスが実現し、多様な就農ルートにより集落を支えるリーダーや雇用人材が確保されています。
- 畑地では、農業法人やJA 部会組織等が連携して、農地の集積・集約化と多様な担い手が確保されています。また、スマート農業技術と畑地かんがい用水を利用した畑作営農が展開されています。

※1 稲作と露地野菜等の高収益作物による水田輪作体系。

※2 畜産農家等から飼料作物の収穫作業等の農作業を受託する組織。



〈序〉計画の策定にあたって

〈第1編〉長期ビジョン

〈第2編〉基本計画

〈第3編〉地域別ビジョン

〈第4編〉計画実現に向けた推進体制

〈資料編〉参考資料

4 目指す将来像実現に向けた重点的施策

1 スマート畜産の実現と持続可能な産地づくり

- ICT 機器・ロボット技術の現場実装及び活用できる人材の育成を行い、スマート畜産の普及・拡大に取り組みます。
- コントラクターと連携した TMR センター※1の整備や定休型肉用牛ヘルパー※2体制を構築し、分業化による安定した生産体制を整備します。
- 口蹄疫や豚熱等の侵入を許さない地域ぐるみの防疫体制の堅持により、安心して畜産経営が営める環境を維持します。



2 集落営農を核とした収益性の高い水田農業の推進

- 集落営農組織等が農業の魅力を発信し、経営体を担う人材が確保できる体制と雇用就農者が確実に地域に定着できる体系的研修体制を構築し、水田農業の担い手確保に取り組みます。
- ほ場整備や畦畔除去、排水改良等の簡易な基盤整備により、水田の大区画化・汎用化を推進し、効率的な農業基盤を整備します。
- 自動走行や生育状況のセンシング機能を有するスマート農業技術を推進し、収益性の高いベストミックス栽培体系の普及・拡大に取り組みます。



3 産地体制の高度化による畑作営農の推進

- 農業法人や個人経営体、JA 部会組織がそれぞれの作付け計画をもとに、農地の集積・集約化ができる体制を整備し、経営規模の拡大を進めます。
- 経営資源情報や他産業等と連携した労働力の調整を行うとともに、新規参入者や離職就農者等の多様な人材が安心して働ける環境づくりに取り組みます。
- ICT や AI、ロボット技術を活用した生産情報管理機器の導入と畑地かんがいにより安定供給される水を使った露地園芸や施設園芸を推進し、消費地から求められる加工・業務用野菜等の生産拡大に取り組みます。



※1 粗飼料、濃厚飼料、添加物等を混合した飼料(TMR)を畜産農家に供給する組織。

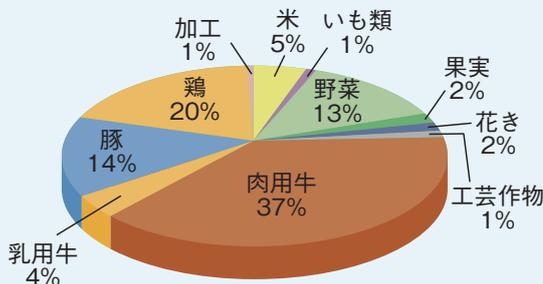
※2 畜産農家が定期的に休日を確保するために、代わりに飼養管理等を行う者。

4 西諸県地域

1 地域農業・農村の特性

- 西諸県地域は、農業産出額の75%を占める畜産を中心に、冷涼な気候条件を生かした野菜や花きの生産をはじめ、稲作や果樹など多彩な農業が展開され、県内有数の農業地帯となっています。
- 当地域の耕地面積については、畑地の割合が54%を占め、県全体の畑地割合(46%)と比較して高くなっています。
- 農地中間管理事業が活用され、担い手への農地集積率は53%と県平均(51%)を上回っています。また、集落営農組織及び集落営農法人の割合は県内でも高くなっています。
- 個人経営体における65歳以上の基幹的農業従事者が占める割合は67%となり、農家の高齢化及び担い手の減少が加速しています。
- 地球規模での気候変動や火山活動の動向、家畜疾病、鳥獣被害、新奇病害虫の発生など営農に対する様々なリスクが顕在化しています。

■ 西諸県地域の農業産出額(H30)



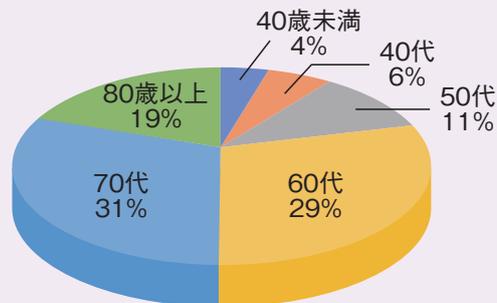
■ 担い手への農地集積の推移(西諸県)



2 現状と課題

- 新規就農者の確保とともに、認定農業者を中心とした法人経営体や集落営農組織など、多様な担い手の育成・強化が急務となっています。
- 担い手が減少していく中で、作業効率を高め、生産性の向上を図るためには、担い手への農地の集積・集約、基盤整備を進めるとともに、スマート農業技術の導入が必要となっています。
- 顕在化する様々なリスクに、的確に対応するための営農対策や防疫対策の強化が必要となっています。

■ 年齢別農業従事者割合(西諸県)(R2センサス)

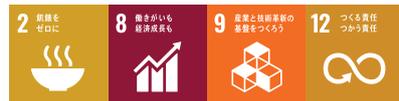


3 地域農業・農村の目指す将来像

‘信頼’と‘共創’による「新たなにしもろ農業・農村の創造」

目指す将来像

- 家族経営体や法人経営体、集落営農組織など多様な担い手が、各地域で確保・育成され、調和の取れた営農が継続されています。
- 基盤整備や農地の集積・集約が進むとともに、スマート農業技術が導入され、県内トップクラスの畜産をはじめとして、大規模露地野菜、集約的な施設園芸など効率的で高収益な農畜産業が展開されています。
- 地元食材を生かした加工品の商品化、食育や地産地消の推進など、地域資源の活用により、魅力ある地域づくりが進んでいます。



〈序〉計画の策定にあたって

〈第1編〉長期ビジョン

〈第2編〉基本計画

〈第3編〉地域別ビジョン

〈第4編〉計画実現に向けた推進体制

〈資料編〉参考資料

4 目指す将来像実現に向けた重点的施策

1 多様な担い手が支える「にしもろ農業」の実現

- 新規就農者等に対し、トレーニング施設^{※1}等での技術習得から経営資源の承継等による就農定着まで、関係機関が連携しながら、技術や経営を総合的に支援します。
- 農業法人やJA 部会等の連携及び基盤整備を契機とした集落営農組織の設立により、地域のリーダーとなる人材の確保・育成を推進します。
- 「人・農地プランの実質化」の取組を進め、地域の中心経営体へ位置付けられた担い手への農地の集積・集約を推進します。



トレーニング施設での技術習得

2 効率的で収益性の高い「にしもろ産地」の構築

- 基盤整備による農地の大区画化や農地の集積・集約による品目毎のゾーニング^{※2}を進めるとともに、大型機械やドローン等を活用した効率的・省力的な土地利用型農業を推進します。
- コントラクター^{※3}、ヘルパー^{※4}制度、TMR センター^{※5}等を整備・強化し、県内トップレベルの畜産地帯が維持できる分業化システムの構築を推進します。
- 畑の区画整理や畑地かんがい施設等の整備を推進するとともに、高収益作物の導入やICT 技術を活用したスマート農業の実践により、安定した高収益農業を推進します。
- 自然災害防止対策や地域防疫体制の強化、新奇病害虫、鳥獣被害防止対策など、安心して営農に取り組める仕組みづくりを推進します。



基盤整備による農地の大区画化及び集積・集約化



スマート農業の実践による省力化及び生産安定

3 豊富な農業資源を生かした「魅力ある地域づくり」の推進

- 加工原料となる農林水産物等の安定生産、農林漁業者と食品事業者等との連携により6次産業化の取組を推進します。
- 多面的機能支払や中山間地域等直接支払等による、地域が主体となった農地の保全・活用の取組を支援します。
- 直売所や観光農園、農家民泊を含めた農作業体験等、農業資源と観光業との連携による地域の活性化を推進します。



地域の農林水産物を活用した6次産業化

※1 就農に必要な知識や技術を習得するために、自治体や農業団体が設置している研修施設。
 ※2 栽培する作物毎に農地利用をエリア分けし、生産性向上を図ること。
 ※3 畜産農家等から飼料作物の収穫作業等の農作業を受託する組織。
 ※4 畜産農家の代わりに家畜の飼養管理等を行う者。
 ※5 粗飼料、濃厚飼料、添加物等を混合した飼料(TMR)を畜産農家に供給する組織。

5 児湯地域

1 地域農業・農村の特性

- 児湯地域は農業が基幹産業であり、農業産出額は825億円(H30)で県全体の24%を占め、畑地かんがいなど基盤整備が進んだ農地を活用し、国内トップクラスの農畜産物が生産されています。また、山間地域ではゆずを基幹品目に、夏秋期にはカラーピーマンを平野部からのリレーで出荷するなど、標高差を生かした特徴ある農業が展開されています。
- 近年では、経営感覚に優れた若者や農業法人が、施設園芸での環境制御技術や酪農での搾乳ロボット等のスマート農業にいち早く取り組み、生産性の向上を進めています。また、牛肉やスイートピー、茶、鶏卵等の品目は、アジア、北米に輸出され、海外市場の販路開拓も積極的に行われています。



搾乳ロボットの導入

2 現状と課題

- 販売農家数、基幹的農業従事者数は、平成12年と令和2年を比較すると4割減少しており、担い手の確保・育成が急務となっています。
- 1戸あたりの経営規模は、露地園芸や畜産では拡大が進んでいるものの、施設園芸では平成10年当時とほぼ変わらない状況にあることから、規模拡大と生産性向上を更に図る必要があります。
- 近年、農業産出額が800億円台を維持するなど、農業が地域のけん引役となっており、農業生産の停滞は、地域経済の後退や集落機能の低下など、大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

■ 1戸当たりの経営規模(作付面積、飼養頭数)

	平成10年	平成30年
施設ピーマン	32a	28a
施設トマト	29a	32a
キャベツ	38a	136a
肉用牛	26頭	72頭
豚	902頭	1,835頭

出典:「市町村集計による野菜生産出荷実績」
「畜産統計」

3 地域農業・農村の目指す将来像

革新と創生で築く、若者が住んで稼げる児湯地域農業

目指す将来像

- 多様な経営体の発展段階に応じた支援体制が強化され、多くの人材が就業先として農業を選択するとともに、分業化や雇用労働力の地域内調整等により、働きやすい環境が整備されています。
- 先進的な農業者や農業法人が、スマート農業技術を駆使し産地をけん引するとともに、中小経営体との連携により、加工・業務用農産物等の生産拡大を行い、効率的で高品質な周年供給が行われています。
- 消費ニーズや流通環境の変化に対応できる産地づくりが進められ、農畜産物の高付加価値化を通して、外貨獲得や雇用が創出されるなど、農を核とした地方創生が図られています。



4 目指す将来像実現に向けた重点的施策

1 産地が一体となった一貫した就農者支援により多様な人材を確保

- 就農希望者に対する相談、研修、農地等のあっせんまでの一貫した支援により担い手の確保に取り組むとともに、園芸施設や牛舎のアパート方式による貸付制度の導入を促進し、就農しやすい環境を整備します。
- きゅうり、ピーマンをはじめ、イチゴや露地野菜、肉用牛など、新規就農者に対する研修品目の拡大やトレーニング施設^{※1}の充実強化を図り、5年間で自立した農業者に育成します。
- JA 部会や農業法人等の多様な経営体の連携により、人材育成や技術・経営資源の承継、労働力調整、分業等のサポート機能が発揮される仕組みづくりに取り組みます。
- 規模拡大を目指す農業者に対しては法人化を促し、経営力や労務管理力の向上により、持続的で安定した雇用環境を整備します。



就農相談会での人材確保

2 技術革新と合理化により産地をけん引する経営体を育成

- 施設園芸では、団地化を促進し、環境制御技術や農業ロボットなど、先端技術の現場への実証・導入を進め、高度な技術を活用したモデル的な経営体を育成します。
- 土地利用型農業では、農地の集約・大区画化等による生産性の向上、キャベツやはくさいなど畑地かんがい用水の強みを生かせる品目の拡大、耕種版インテグレーション^{※2}の推進、水田経営の大規模化等に取り組み、効率的で安定した生産を行う経営体を育成します。
- 畜産では、TMR センター^{※3}整備による飼料生産の分業化や、分娩間隔の短縮に向けた発情発見装置等の ICT、AI 技術の導入を進め、効率的で収益性の高い大規模経営体を育成します。



キャベツの自動収穫

3 農を核とした新たなビジネスを創出

- ぶどう等のブランド産地の再編や、ジビエ等の地域資源の利活用等の取組を進めることにより、農を核としたビジネスを創出し、外貨獲得と雇用機会の確保を図ります。特に山間地域のゆず産地においては、生産から加工、販売までを産地が手がける体制を強化し、農業による地域活性化を促進します。
- 農畜産物の6次産業化・産地加工による高付加価値化や、ふるさと納税返礼品、観光商材等の開発など、他産業と連携した取組を進め、地域内外の需要を取り込む産品づくりを進めます。
- 集出荷場の集約と予冷库整備による輸送の効率化・高品質化を進めるとともに、スイートピーや茶など輸出先のニーズや GAP 等の国際基準に対応した産地づくりを進め、国内外への販売力を強化します。

革新と創生で築く、若者が住んで稼げる児湯地域農業

産地が一体となった一貫した就農者支援により多様な人材を確保

- トレーニング施設の充実強化
- サポート機能が発揮される仕組みづくり等



技術革新と合理化により産地をけん引する経営体を育成

- 先端技術の導入・実証
- 耕種版インテグレーション、畜産の分業化等



農を核としたビジネス創出

- ぶどうなどブランド産地の再編
- 高付加価値化や他産業との連携等



※1 就農に必要な知識、技術を習得するために、自治体や農業団体が設置している研修施設。
 ※2 生産者と実需者が、生産から加工、販売までの一体的なルールによる統合的な契約を結び取組。
 ※3 粗飼料、濃厚飼料、添加物等を混合した飼料(TMR)を畜産農家に供給する組織。

6 東臼杵地域

1 地域農業・農村の特性

- 東臼杵地域は総面積の87%を森林が占め、耕地面積は3%程度です。また、総人口は約20万人で県全体の約2割を占めています。
- 都市近郊に位置する特徴や海拔0mから1,000mまでの標高差を生かし、沿海地域では水稻や施設園芸、肉用牛繁殖を中心とした経営が、中山間地域では林業や茶、園芸作物、肉用牛繁殖等を組み合わせた農林業経営が展開されています。
- 冬春ミニトマト、高糖度トマトの生産が拡大傾向にあるほか、シキミやへべす、きんかん、くり、たまねぎ、夏秋ミニトマト、夏秋ほうれんそうの産地となっています。



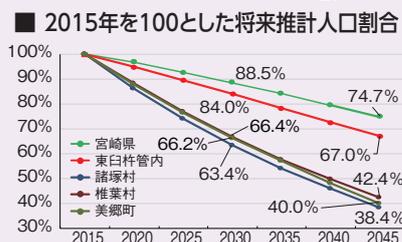
冬春ミニトマトの収穫期



シキミの優良系統園

2 現状と課題

- 基幹的農業従事者の平均年齢は県内で最も高く、2045年の将来推計人口が2015年から6割減少する町村がある等、急激な人口減少や高齢農業者のリタイアが懸念されています。
- 担い手の減少や労働力不足から産地の持続性が脅かされており、生産性の向上や分業生産体制の構築、農地の集約、生産基盤の整備など地域特性に応じた「産地革新」の実践が待たなしです。
- 特に、中山間地域においては、生産力の減退に加え、集落機能や多面的機能の低下が危惧されており、基幹産業である農林業と多様な産業との融合による所得・雇用の確保に向けた取組が必要です。



3 地域農業・農村の目指す将来像

地域の技と力を集結して、チームで「産地革新」に取り組む東臼杵農業

目指す将来像

- 地域を中心となる農業者をはじめ、行政や農業団体等がチームとなり、産地や経営体が抱える人材育成、労働力確保、農地調整、経営資源承継等の諸課題を解決するための調整機能やサポート機能が発揮されています。また、人口減少時代に対応し、経営を退く農業者の施設や農地を引き受けながら経営を拡大・発展させていく中心的な経営体が育成されています。
- 地域に適したスマート農業が導入され、労働負担の軽減や技術格差の解消が進み、基盤整備と一体化した農地集約により、効率的な農業が展開されています。また、キャトルセンター等の拡充による分業化や自給飼料の広域流通体制の整備が進み、中山間地域を含めた飼養頭数の拡大と定休型畜産^{※1}が実現しています。
- 中山間地域においては、世界農業遺産「高千穂郷・椎葉山地域」に象徴される特徴的かつ持続的な農林業を基礎に、新たな雇用型経営体が育成され「稼ぐ農業」が展開されるとともに、市場開拓の司令塔となる「産地型商社^{※2}」の設立により、新たなビジネスが展開され、人の流入と雇用の創出により地域が活性化しています。

※1 定期的に休日ととれる畜産。

※2 農産物や観光等の地域資源のブランド化をプロデュースする「地域商社」の機能に加え、産地の持続的発展に向けた各種積極的な支援を展開する組織。



4 目指す将来像実現に向けた重点的施策

1 多様な人材の育成とサポート機能の強化

- 技術の習得や農地・施設・住居等の確保に係るワンストップの支援体制を整備し、新規就農者や他産業からの農業参入を推進します。
- 中心的な経営体が抱える農地・労働力調整や人材育成、経営承継など共通の課題解決に向け、生産部会、農業法人等と連携し、「地域調整機能」の強化に取り組みます。
- 経営を退く農業者の施設や農地を引き受けながら経営を拡大・発展させていく雇用型経営体や共同事業体（共同利用や分業を行う経営体群）、農業法人の育成に努めます。
- JA 法人等の「サポート組織」の機能充実に向けた検討を進め、集落営農組織等との相互補完により、地域農業を守る仕組みを構築します。
- 農業の魅力発信や地域経済の循環役が期待される食育・地産地消について、学校や地元企業との連携等により取組を強化します。



トレーニング施設(ミニトマト)



援農隊によるきんかん収穫

2 産地革新の実践と販売力の強化

- スマート農業についての情報発信や技術の実証、費用対効果の分析等により地域に適した技術の導入を進め、農業の省力化・効率化・高収益化を推進します。
- 担い手への農地集積・集約を進めるため、農地中間管理事業の推進を強化するとともに、効率的で災害に強く持続可能なスマート生産基盤の整備を加速します。
- キャトルセンター※1の拡充・整備やヘルパー※2機能の拡充等地域に適した分業化の促進により、多頭飼育農家の規模拡大と少頭飼い農家の作業負担軽減を図り、地域内の飼養頭数の維持拡大に努めます。
- 加工・業務用野菜等の生産拡大や産地加工の推進、新商品の開発等社会構造の変化に対応した販売力の強化に取り組みます。



畜産クラスター牛舎整備



加工・業務用野菜の産地育成

3 持続的で魅力あふれる農業・農村づくり

- 中山間地域の稼ぐ農業を実現するため、広域的な基盤整備を推進するとともに、雇用型経営に発展する夏秋野菜・果樹・シキミ経営体等の育成を推進し、体験型観光等の交流人口の拡大策や他産業との連携により、域内の周年雇用体制の構築を進めます。
- 地域の魅力発信と外貨獲得機能の強化に向け、人や産業をつなぐ「産地型商社」の設立を支援します。
- 自給飼料の広域流通体制の整備や畜産バイオマスの利活用促進など中山間地域の増頭対策を推進します。
- 生産者の防疫意識の喚起や定期的な防疫研修・演習を実施するとともに、農場ごとに確保されている埋却地の評価に取り組み、家畜防疫体制を強化します。



夏秋ほうれんそうハウス



確保されている埋却地

※1 JA等が生産された子牛を預かり、ほ育・育成を集団的に行う施設。

※2 畜産農家の代わりに家畜の飼養管理等を行う者。

7 西臼杵地域

1 地域農業・農村の特性

- 九州のほぼ中央部に位置する西臼杵地域は、平坦地が極めて少ない厳しい環境にあり、点在する集落の近くを通る山腹用水路に沿って拓かれた不整形な水田（棚田）や畑が、標高100～1,000mに分布しています。
- 農家の4戸に1戸が飼養している伝統的な肉用牛と水稲を基幹に、山間地の冷涼な気候を生かした夏秋野菜や花き、果樹等を組み合わせた複合経営が主に営まれています。また、全国的に希少な釜炒り茶など、特色ある品目の産地が形成されています。
- 地域の伝統的な山間地農林業複合システムや美しい景観、農村に息づく伝統文化等が高く評価され、2015年に世界農業遺産*1に認定されています。



棚田百選(石垣の村)

2 現状と課題

- 農業者の減少が進む中、中心的な担い手をはじめ、高齢農業者や兼業農家等が協力し合う継続した集落共同の取組が、農地や産地を守っています。

西臼杵地域の基幹的農業従事者の増減数				
2010年①		2020年②		①-②
15～49歳	368人	25～59歳	408人	40人
50～59歳	707人	60～69歳	834人	127人
60～74歳	1,409人	70～84歳	1,002人	▲407人

(出典:農林業センサス2010,2020)

- 少子高齢化の中、持続的に農地を守っていくには、定年帰農者の確保と、高齢者により長く農業を続けてもらうことが重要です。さらに、若い就農者を積極的に呼び込み農地や技術を承継していくため、就農希望者の受入体制の充実が必要です。
- また、これまでより少ない人数でより多くの農地や水路、作物や家畜の管理ができるよう、農作業の省力化・効率化・高度化に向けたスマート農業技術の導入が必要です。
- 風光明媚な景色や人柄に惹かれ、国内外から農泊に訪れる人も増加するなど、当地域は、観光面で高いポテンシャルを秘めています。世界農業遺産の認定等を生かし、農で潤う地域づくりができる地域です。

3 地域農業・農村の目指す将来像

伝統に、新たな人を呼び寄せて、先端技術で輝き続ける棚田地域

目指す将来像

- 集落ぐるみ、地域ぐるみで営農をサポートする仕組みが整い、高齢農業者や兼業農家が生き生きと営農を継続しています。
- 若い農業者が増え、生産拡大や多角化に意欲的に取り組み、定年帰農者が、集落や産地の担い手として活躍しています。
- スマート農業技術の導入により効率よく農地や作物・家畜を管理できるようになり、高齢者に優しく若者に魅力ある農業が展開されています。
- 交流・関係人口が増え農村が活気にあふれ、西臼杵地域の魅力を再認識した若者が移住・定住し、農業に大きく関わりながら生活しています。

*1 世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域(農林水産業システム)を、国際連合食糧農業機関(FAO)が認定する制度。



4 目指す将来像実現に向けた重点的施策

1 共同の力で農地を守り農業を続ける農村集落づくり

- 日本型直接支払の加算制度等を活用し、作業の共同化や受託のための体制を構築・強化します。
- 災害に強く管理がしやすい生産基盤を構築するため、コンクリート畦畔や老朽化した農業用排水路等の整備を進めます。
- 住みよい農村づくりのため、集落内の道路や営農飲雑用水施設等の整備を進め、生活環境の改善に取り組みます。



山腹用水路の共同管理

2 将来の地域農業を担う経営体の支援と新たな担い手の育成

- 肉用牛の増頭など、意欲的な農業者の経営規模拡大に必要な施設等の整備や技術の導入等を支援します。
- 西臼杵農業の魅力を積極的・効果的に発信するとともに、Uターン^{※1}者が安心して就農できるよう、技術、農地、住居をパッケージで提供できる仕組みをつくります。
- 定年帰農者の活躍を後押しするため、新たに導入する品目の生産や集落リーダーとしてのスキルアップに向けた取組を支援します。
- 地域全体で雇用を確保し、必要なときに必要な場所で必要な労働力を循環させる体制の構築を推進します。



牛舎を整備し担い手を育成

3 スマート農業技術の導入による省力化と生産性の向上

- 負担が大きい畦畔法面の草刈りや用水管理の省力化を進めるため、リモコン式草刈機や自動給水栓等、先進技術を実証し、導入を進めます。
- 肉用牛の発情発見や分娩監視をサポートする牛群管理システムの導入を推進し、分娩間隔の短縮や分娩事故率の低減に取り組みます。
- 耕種部門では、ドローンや栽培環境監視システムなど省力化や品質向上につながる技術の導入を推進します。



リモコン式草刈機での畦畔除草

4 世界農業遺産の認定を生かした観光業等と連携した新たなしごとづくり

- 景観に優れた棚田や茶園等を、多くの人々が訪れることができる世界農業遺産のシンボリックな場所として整備するとともに、指定棚田地域となったメリットも生かしながら、住民主体の交流促進の取組を支援します。
- 旅行者の宿泊場所の確保や教育旅行等大口需要への対応のため、農泊施設の連携を強化するとともに、新たに農泊に取り組む農業者を支援します。
- 西臼杵の産品に新たな需要を創造し、農村地域の収益と雇用の場を生み出すため、農産加工品の製造・開発・磨き上げ・販路拡大を支援します。



農泊旅行者の農作業体験

※1 Uターン、Iターン、Jターンを要約した言葉。